GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 15 – Romans

The Jew-Gentile Question

Romans 9-11

神はわれらと共に

パート 10：初期の手紙

第 15 メッセージ –ローマ人

ユダヤ人―異邦人の質問

ローマ人への手紙第 6-8 章

はじめに

ローマ人への手紙１－８章で、パウロは、ユダヤ人でも、異邦人でも、誰でも神との関係を取り戻すことが可能であると説明しました。そして、すべての人々への神の愛の賜物の強調は疑問をなげかけました。旧約聖書に記されているように、ユダヤ人のための神の特別なご計画はどうなったのでしょうか？ 初代教会に群がる異邦人の数がユダヤ人の数をはるかに上回っていたため、この質問は特に差し迫ったものでした。パウロはローマ人への手紙第 9―11 章で、ユダヤ人と異邦人に関する質問に答えることで、神の主権と神秘的な方法について記しています。

ローマ人への手紙第 9 章：神のご計画に決して失敗はない

イスラエル：特権国

9:1 わたしはキリストにあって真実を語る。偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によって、わたしにこうあかしをしている。 9:2 すなわち、わたしに大きな悲しみがあり、わたしの心に絶えざる痛みがある。 9:3 実際、わたしの兄弟、肉による同族のためなら、わたしのこの身がのろわれて、キリストから離されてもいとわない。 9:4 彼らはイスラエル人であって、子たる身分を授けられることも、栄光も、もろもろの契約も、律法を授けられることも、礼拝も、数々の約束も彼らのもの、 9:5 また父祖たちも彼らのものであり、肉によればキリストもまた彼らから出られたのである。万物の上にいます神は、永遠にほむべきかな、アァメン。（ローマ９：１－５）

パウロは、同胞のユダヤ人たちがイエス・キリストについての救いの知識を得ることを切望しました。パウロの心からの叫び：「神よ、彼らのためなら、この身がキリストから離されてもいといません！」もちろん、神はご自分の子を決して断ち切られるようなことはなさらないので、そのようなことは不可能なことです。それでも、パウロの同胞のユダヤ人たちのための願いが明らかにされています。第 9 章 5 節の言い回し、「…万物の上にいます神、キリスト。。。」に注意

してください。 イエス様は、ユダヤ人のキリストであるだけでなく、肉によっても神でした。

あなたのトップ 3 は誰ですか？ 今日、あなたの心は誰のために悲しんでおられますか？ 信仰を人と分かち合うことは、先ず心から始まります。 神に、あなたのトップ 3 が誰であるかを示していただきましょう。 彼らのために祈り、神が機会を与えてくださるとき、イエスの愛を示しましょう。

イスラエルがユダヤ人のメシアで、神の子であるイエスを拒絶したことに、パウロは最も悲しみました。 これが次の質問を投げかけます。

人が拒絶したとき、神のご計画は失敗したことになりますか？

9:6 しかし、神の言が無効になったというわけではない。なぜなら、イスラエルから出た者が全部イスラエルなのではなく、 9:7 また、アブラハムの子孫だからといって、その全部が子であるのではないからである。かえって「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」。 9:8 すなわち、肉の子がそのまま神の子なのではなく、むしろ約束の子が子孫として認められるのである。 9:9 約束の言葉はこうである。「来年の今ごろ、わたしはまた来る。そして、サラに男子が与えられるであろう」。 9:10 そればかりではなく、ひとりの人、すなわち、わたしたちの父祖イサクによって受胎したリベカの場合も、また同様である。 9:11 まだ子供らが生れもせず、善も悪もしない先に、神の選びの計画が、 9:12 わざによらず、召したかたによって行われるために、「兄は弟に仕えるであろう」と、彼女に仰せられたのである。 9:13「わたしはヤコブを愛しエサウを憎んだ」と書いてあるとおりである。（ローマ９：６－１３）

答え：神のご計画は決して失敗することはありません。 むしろ、人間の善悪の選択にかかわらず、神のご計画は前進します。 適例：神はアブラハムの一族の特定の家系を用いられることをお選びになり、子孫が生まれる前から、神のご計画は決まっていました！ したがって、神のご計画は人間の協力を条件とはしないといえます。 イスラエルがイエスをメシアとして受け入れることを拒否しても、アブラハムとその子孫に対してなされた神のご計画とお約束が無効になることはありません。

備考：**「わたしはヤコブを愛しエサウを憎んだ」（ローマ 9:13）。** 神はすべての人を愛しておられます。 しかし、神のご計画を進めるために特定の人々の家系を選ばれるという点で、神はエサウではなくヤコブを選ばれました。 それでも神は、エサウの家系に生まれた人々をも愛しておられます。 神

はイスラエルに、エサウの子孫であるエドム人を愛するための律法さえ与えられました。「**23:7 あなたはエドムびとを憎んではならない。彼はあなたの兄弟だからである。またエジプトびとを憎んではならない。あなたはかつてその国の寄留者であったからである。（申命記２３：７）**

神が一個人や一国を選ばれることは不公平なことですか？

9:14 では、わたしたちはなんと言おうか。神の側に不正があるのか。断じてそうではない。 9:15 神はモーセに言われた、「わたしは自分のあわれもうとする者をあわれみ、いつくしもうとする者を、いつくしむ」。 9:16 ゆえに、それは人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである。 9:17 聖書はパロにこう言っている、「わたしがあなたを立てたのは、この事のためである。すなわち、あなたによってわたしの力をあらわし、また、わたしの名が全世界に言いひろめられるためである」。 9:18 だから、神はそのあわれもうと思う者をあわれみ、かたくなにしようと思う者を、かたくなになさるのである。（ローマ９：１４－１８）

答え：神は「主権者」であられるので、ご自分がなさろうと決められたことは何でもお出来になります。神はまた、賢く、公正で、聖く、悪を行われることがお出来にならないお方です。 しかし、この部分でパウロが強調したかったことは、神がなさりたいことを何でもおできになる神の権利–神の主権についてです。

備考：神は出エジプト記の中で「パロの心をかたくなにされ」ました。 しかし聖書は、パロが自身の心をかたくなにしたとも記録しています。 神の御心と人間の意志という 2 つの力を同時に働かされるのです。 ローマ人第 9 章でパウロは、その 2 つの力を調和させようとしているのではありません。むしろ、神の主権を強調し、ユダヤ人によるイエスの拒絶は神主権の御心とご計画を妨げていないこと主張しています。

彼らの決定が神の主権の御心によって事前に決定されているなら、なぜ神に人々を非難することができるでしょうか？

9:19 そこで、あなたは言うであろう、「なぜ神は、なおも人を責められるのか。だれが、神の意図に逆らい得ようか」。 9:20 ああ人よ。あなたは、神に言い逆らうとは、いったい、何者なのか。造られたものが造った者に向かって、「なぜ、わたしをこのように造ったのか」と言うことがあろうか。 9:21 陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか。（ローマ人９：１９－２１）

答え：「神の正義」について議論するのことは無駄です。 人間が神の過ちを見つけるという考えそのものが、パウロにとってはばかげていました。 神の方法と御心は神秘的かもしれません。 しかし、私たちが不義な、悪な、不全な、不公平な神について議論するなら、私たちは「神」という考えそのものを否定しています。

イスラエルがイエスを拒絶したことによって、神のご計画が前進したとしたらどうでしょうか？

9:22 もし、神が怒りをあらわし、かつ、ご自身の力を知らせようと思われつつも、滅びることになっている怒りの器を、大いなる寛容をもって忍ばれたとすれば、 9:23 かつ、栄光にあずからせるために、あらかじめ用意されたあわれみの器にご自身の栄光の富を知らせようとされたとすれば、どうであろうか。 9:24 神は、このあわれみの器として、またわたしたちをも、ユダヤ人の中からだけではなく、異邦人の中からも召されたのである。

答え：神は、人間の拒絶による「閉じた扉」をお用いになって、前進するために他の扉を開かれます。 たとえば、創世記第 15 章 12-16 節で、神はアブラハムの子孫のために神のご計画を前進させると約束されました。それでも、そのご計画は、400 年にわたるエジプトの不信仰と神の忍耐力と織り交ぜてこられました。同様に、イエスを拒絶するというイスラエルの不従順は、異邦人の世界に救いをもたらすという神のより広い計画へとつながりました。

備考：神の主権と予見の教義は、神が意図的に人々が地獄に行くように運命づけていることを意味しますか（いわゆる「二重予見」）？それは 違います！ 聖書は、地獄に行く人々に対して神に責任を負わせられるようなことは決してありません。 ここでの言い回しにも注意しましょう：

9:22 もし、神が怒りをあらわし、かつ、ご自身の力を知らせようと思われつつも、滅びることになっている怒りの器を、大いなる寛容をもって忍ばれたとすれば、

9:23 かつ、栄光にあずからせるために、あらかじめ用意されたあわれみの器にご自身の栄光の富を知らせようとされたとすれば、どうであろうか。

神は、その怒りの対象（神に故意に抵抗している人々）に対して、大きな忍耐を持っておられます。さらにパウロは、神が彼らを滅ぼすために備えられたとは言っていません。 つまり、彼ら自身の選択によって、自信を破壊に備えていたということです。 対照的に、「神のあわれみの対象」は、神が栄光のために事前に準備されたものであることに注意してください。

神は人々をご自身に引き寄せることに積極的に関わっておられます。 しかし、神を拒絶することを選択した人々が滅びることをお許しになることには消極的でおられます。

ユダヤ人の拒絶／イエスの寛大な受け入れ。

　これらすべてが主な質問とどのように関連するでしょうか。ユダヤ国家はどうでしょうか？ ユダヤ人がイエスを拒絶する選択をしたとき、これはイエスを受け入れることを選択する異邦人の大規模な流入への扉を開くという神のご計画実現に働きました。 パウロは旧約ホセア書とイザヤ書を引用し、これがずっと神のご計画であったことを示しました。

9:25 それは、ホセアの書でも言われているとおりである、「わたしは、わたしの民でない者を、わたしの民と呼び、愛されなかった者を、愛される者と呼ぶであろう。（ローマ９：２５）

　この第 9 章の終わりで、パウロは、視点を返し、人間的側面に重点を置きます。イスラエルがイエスを信じないという選択は、旧約の 預言者たちも預言していました。

神のあわれみを拒絶するというユダヤ人の決定。

9:30 では、わたしたちはなんと言おうか。義を追い求めなかった異邦人は、義、すなわち、信仰による義を得た。 9:31 しかし、義の律法を追い求めていたイスラエルは、その律法に達しなかった。 9:32 なぜであるか。信仰によらないで、行いによって得られるかのように、追い求めたからである。彼らは、つまずきの石につまずいたのである。9:33「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石、さまたげの岩を置く。それにより頼む者は、失望に終ることがない」と書いてあるとおりである。（ローマ９：３０－３３）

　最後の行に注意してください：「**それにより頼む者は、失望に終ることがない**。」 これは、イエスに従うことを選択する人間の責任を示す側面です。 ユダヤ人は「つまずきの石」、つまり彼らの罪のためのイエスの死につまずきました。 彼らは神の恵みと憐れみの概念に直面し、代わりに彼ら自身の善行と宗教的儀式によって救いを追求することを選びました。 一方、異邦人は、罪人に対する神の驚くべき恵みに感謝して、神の家族に加わりました。

要約：世の救いのための神のご計画は、ユダヤ人の不信仰によって妨げられませんでした。 むしろ、神のご計画は、正確に前進しています。

ローマ人への手紙第 10 章：人間側が選択しなければならない

恵みではなく、行いによって救いを追求することについて。

10:1 兄弟たちよ。わたしの心の願い、彼らのために神にささげる祈は、彼らが救われることである。 10:2 わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。 10:3 なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。 10:4 キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終りとなられたのである。
（ローマ１０：１－４）

パウロの時代のユダヤ人は、救いの働きのシステムを確立していました。 旧約聖書から特定した 613 の戒めを綿密に守ることによって、彼らは善行によって救われると考えました。 だから、神の道、つまりキリストの十字架による恵みの道を受け入れることを拒否しました。

これは今日も頻繁にみられる問題です。 人々は彼ら自身の救いの道、彼ら自身の宗教の形態を構築し、それらの道を非常に献身的に追求します。 問題は、私たちの行いによってではなく、神の恵みによって道をすでに定めておられるということです。 人間が神に代わって、自分たちの救いをもたらす手段を決定することは不可能です。 神は神であり、私たちを罪から救うために何が必要で正しいかを決めることがおできになるのは神のみです。 あなたはいかがですか？ あなたは神の驚くべき恵みを受け入れられましたか？ あなたは毎日、神の恵みの内におられますか？ それとも、神があなたの条件に基づいて、あなたを受け入れることを期待して、救いへのあなた自身の道を描くことを選んでおられますか？

私たちが思っている以上に救いは身近にある 。

10:5 モーセは、律法による義を行う人は、その義によって生きる、と書いている。 10:6 しかし、信仰による義は、こう言っている、「あなたは心のうちで、だれが天に上るであろうかと言うな」。それは、キリストを引き降ろすことである。 10:7 また、「だれが底知れぬ所に下るであろうかと言うな」。それは、キリストを死人の中から引き上げることである。 10:8 では、なんと言っているか。「言葉はあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある」。この言葉とは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉である。
（ローマ１０：５－８）

モーセは、神からの戒めを受けるために山に「上り」ました。 モーセは人々に「神を連れて下り」ました（比喩）。 モー

セの死が近づいたとき、イスラエルの人々はこう尋ねました。『この先、誰が神を連れて下るために山に『上』るのですか？』 それに対してモーセが人々に言いました。『誰も神を連れて下るために山に上ったり、下ったりする必要はありません。 神はあなたの近くにおられます。』（参照：申命記30：11-14）。 パウロは、モーセの言葉を用いて主張しました。 救いの道は、善行という山の頂上に登るほど難しいことではありません。 むしろ、救いは口や心の様に身近にあります。 誰でも、どこでも、救いは、ただ祈るだけで手に入れることができるのです！

救いの賜物を受け取る方法

10:9 すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。 10:10 なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。 10:11 聖書は、「すべて彼を信じる者は、失望に終ることがない」と言っている。 10:12 ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない。同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである。 10:13 なぜなら、「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」とあるからである。
（ローマ１０：９－１３）

－心で、イエスはご自身がおっしゃる通りの方であると信じてください。
－イエスへの信仰（信頼）を口頭で簡単に告白することによって、心の信念を表現してください。

神は、私たちの心の姿勢に最も関心を持っておられます。私たちはイエスを救い主として本当に信じ（信頼し）ているでしょうか？ イエス様が私たちの心に真の信念を見ておられるなら、私たちが「救いの祈り」でどんな言葉を用いるかなど問題ではありません。 それは教会の礼拝での静かな祈り、あるいはバプテスマの際の信仰告白かもしれません。 それは、十字架上のイエスのとなりの泥棒のように、土壇場で救いを求める神への訴えかもしれません（参照：ルカ 23:42）。神はイエスへの信仰の心を表すどんな言葉をも聞かれるでしょう！ あなたはどうでしょうか？ 一度限り、あなたの信仰を救い主であられるイエス様に置かれたでしょうか？

しかし 、誰がこの良い知らせを彼らに告げるのでしょうか。

10:14 しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。 10:15 つかわされなくては、どうして宣べ伝える

ことがあろうか。「ああ、麗しいかな、良きおとずれを告げる者の足は」と書いてあるとおりである。
（ローマ 10：14-15）

多くの人々は、救いの賜物の単純さと美しさを全く知らずに生きています。キリストの大使である私たちが彼らに良い知らせを語っていないからです！

私たちの役割は、良い知らせを明確で魅力的な方法でシェアすることです。 相手が理解し、反応するために心を開くかどうかは神の役割です。 神の愛を聞いて心に受け入れるかどうかは彼らの役割です。 あなたの信仰を分かち合うことは、イエス様とのあなた自身の歩みにおいて、成長するための最良の方法の一つです。 人が神の子になることを助けるために神によって用いられることほど大きな喜びはありません。 是非お試しください！ **52:7 よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって「あなたの神は王となられた」と言う者の足は山の上にあって、なんと麗しいことだろう。（イザヤ５２：７）**

第 9 章では、神主権の選択を強調しています。 第 10 章では、人間側の役割、つまり良い知らせをシェアする側と、良い知らせを受け取る側の責任を強調しています。 そして、第 10 章は、応答する人間側の責任に重点を置いて閉じます（特に、イスラエルがそうすることを拒否したことに言及しています）。

良い知らせを受け入れる側の人間の責任。

10:16 しかし、すべての人が福音に聞き従ったのではない。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っている。 10:17 したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。 10:18 しかしわたしは言う、彼らには聞えなかったのであろうか。否、むしろ「その声は全地にひびきわたり、その言葉は世界のはてにまで及んだ」。10:19 なお、わたしは言う、イスラエルは知らなかったのであろうか。まずモーセは言っている、「わたしはあなたがたに、国民でない者に対してねたみを起させ、無知な国民に対して、怒りをいだかせるであろう」。10:20 イザヤも大胆に言っている、「わたしは、わたしを求めない者たちに見いだされ、わたしを尋ねない者に、自分を現した」。10:21 そして、イスラエルについては、「わたしは服従せずに反抗する民に、終日わたしの手をさし伸べていた」と言っている。（ローマ 10：16-21）

パウロは、彼自身のユダヤ人の同胞たちが、神が「一日中」「両手を広げて」彼らに訴え続けておられる神に抵抗し

ていたと言います。その間、異邦人はイエス様への信仰を通して王国に流れ込んでいました。 イスラエルの問題はかたくなな心でした。 イエスが彼らの救い主であるという考えを謙虚に、心を開いて考慮することを望みませんでした。 かつて、パウロ自身がかたくなな心をもっていたので、パウロはこの問題をよく理解していました。 それでも、キリストを通しての救いの美しさと単純さを知ったので、より多くの同胞のユダヤ人たちがキリストに救いを見いだすことに心から期待して、切望し、祈り、教え説き、記しました。

ローマ人への手紙第 11 章：ユダヤ人と異邦人の未来

イスラエルのレムナント（残れる者たち）が救われています。

11:1 そこで、わたしは問う、「神はその民を捨てたのであろうか」。断じてそうではない。わたしもイスラエル人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の者である。 11:2 神は、あらかじめ知っておられたその民を、捨てることはされなかった。聖書がエリヤについてなんと言っているか、あなたがたは知らないのか。すなわち、彼はイスラエルを神に訴えてこう言った。 11:3「主よ、彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこぼち、そして、わたしひとりが取り残されたのに、彼らはわたしのいのちをも求めています」。 11:4 しかし、彼に対する御告げはなんであったか、「バアルにひざをかがめなかった七千人を、わたしのために残しておいた」。 11:5 それと同じように、今の時にも、恵みの選びによって残された者がいる。 11:6 しかし、恵みによるのであれば、もはや行いによるのではない。そうでないと、恵みはもはや恵みでなくなるからである。（ローマ 11：1-6）

パウロの同胞のユダヤ人の大多数は、イエスによる神の救いを拒絶しました。 しかし、イエスを受け入れたユダヤ人が何人かいたという事実は、神のご計画の中で、そのような特別な役割を果たすために選ばれた人たちを完全に拒絶されたわけではなかったことを示しています。

イスラエルの心のかたくなさ。

11:7 では、どうなるのか。イスラエルはその追い求めているものを得ないで、ただ選ばれた者が、それを得た。そして、他の者たちはかたくなになった。11:8「神は、彼らに鈍い心と、見えない目と、聞えない耳とを与えて、きょう、この日に及んでいる」と書いてあるとおりである。 11:9 ダビデもまた言っている、「彼らの食卓は、彼らのわなとなれ、網となれ、つまずきとなれ、報復となれ。11:10 彼らの目は、くらんで見えなくなれ、彼らの背は、いつまでも曲っておれ」。（ローマ 11：7-10）

ユダヤ人のレムナント（残れる者たち）が今日も救われている中、当時、ほとんどのイスラエル人の心がイエスのメッセージを受け入れなかったということは悲しい事実でした。人々が何度も何度も神に「NO」と繰り返すなら、いずれ彼らの心のかたくなさを固められるでしょう。パウロは、これがイスラエルの民に起こっていると言いました。彼らがイエスに「NO」と言い続けたとき、彼らの心は神によって固められました。

神はイスラエルのことを諦めておられるのではありません。

11:11 そこで、わたしは問う、「彼らがつまずいたのは、倒れるためであったのか」。断じてそうではない。かえって、彼らの罪過によって、救が異邦人に及び、それによってイスラエルを奮起させるためである。 **11:12** しかし、もし、彼らの罪過が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となったとすれば、まして彼らが全部救われたなら、どんなにかすばらしいことであろう。**11:13** そこでわたしは、あなたがた異邦人に言う。わたし自身は異邦人の使徒なのであるから、わたしの務を光栄とし、 **11:14** どうにかしてわたしの骨肉を奮起させ、彼らの幾人かを救おうと願っている。 **11:15** もし彼らの捨てられたことが世の和解となったとすれば、彼らの受けいれられることは、死人の中から生き返ることではないか。 **11:16** もし、麦粉の初穂がきよければ、そのかたまりもきよい。もし根がきよければ、その枝もきよい。（ローマ 11：11-16）

彼らはイエスを拒絶したにもかかわらず、神は、イスラエルを拒絶していません。パウロは、ユダヤ人がイエスを拒絶したことを悔い改める日を予期しています。彼らの大多数がキリストに立ち返り、その結果、地球全体に大きな祝福が注がれます。（イスラエルの悔い改めの日に関する預言については、ゼカリヤ 10：12-14 を参照してください。）

イスラエルは再び接ぎ木される。

11:17 しかし、もしある枝が切り去られて、野生のオリブであるあなたがそれにつがれ、オリブの根の豊かな養分にあずかっているとすれば、 **11:18** あなたはその枝に対して誇ってはならない。たとえ誇るとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのである。 **11:19** すると、あなたは、「枝が切り去られたのは、わたしがつがれるためであった」と言うであろう。 **11:20** まさに、そのとおりである。彼らは不信仰のゆえに切り去られ、あなたは信仰のゆえに立っているのである。高ぶった思いをいだかないで、むしろ恐れなさい。 **11:21** もし神が元木の枝を惜しまなかったとすれば、あなたを惜しむようなことはないであろう。 **11:22** 神の慈愛と峻厳とを見よ。神の峻厳は倒れた者たちに向けら

れ、神の慈愛は、もしあなたがその慈愛にとどまっているなら、あなたに向けられる。そうでないと、あなたも切り取られるであろう。 11:23 しかし彼らも、不信仰を続けなければ、つがれるであろう。神には彼らを再びつぐ力がある。 11:24 なぜなら、もしあなたが自然のままの野生のオリブから切り取られ、自然の性質に反して良いオリブにつがれたとすれば、まして、これら自然のままの良い枝は、もっとたやすく、元のオリブにつがれないであろうか。（ローマ 11：17-24）

ユダヤ人と異邦人のための神の救いのご計画は、栽培された木（イスラエル）と野生種の木（異邦人）の 2 本のオリーブの木として描かれています。特別な木の根は、神がアブラハムとその子ら（ユダヤ人）になされた約束です。特別なオリーブの木の自然の枝はユダヤ人です。それらの自然の枝は、イエスを拒絶したために「壊れた」のです。「接ぎ木」された「野生のオリーブの木」から栽培された木への枝は、異邦人です。異邦人は庭師（神）によって接ぎ木されたので、彼らは今、特別なオリーブの木の祝福（根）を汲み上げています（アブラハムへの約束を受けています）。しかし、これらの「野生種の枝」は、現在の特権について傲慢になるべきではありません。神が野生の枝（異邦人）を特別な木に移植することがおできになるなら、元の自然の枝（ユダヤ人）をも特別な木に接ぎ木することがおできになるからです。そして、まさにこれは、神が将来のある時点で行なわれることです。

全体的なメッセージは、異邦人たちよ、あなたの現在の特権と神のご計画における位置に感謝しなさい。特にイスラエルの心がかたくなな時期に、決して彼らに対して傲慢になってはなりません。神はいつの日か、自然の枝を木に戻されるでしょう。なぜそう言えるのででしょうか？神はご自分の民に対する約束を破ることができないお方からです。

イスラエルに対する神のお約束は決して失敗に終わっていない。

11:25 兄弟たちよ。あなたがたが知者だと自負することのないために、この奥義を知らないでいてもらいたくない。一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人が全部救われるに至る時までのことであって、 11:26 こうして、イスラエル人は、すべて救われるであろう。すなわち、次のように書いてある、「救う者がシオンからきて、ヤコブから不信心を追い払うであろう。11:27 そして、これが、彼らの罪を除き去る時に、彼らに対して立てるわたしの契約である」。11:28 福音について言えば、彼らは、あなたがたのゆえに、神の敵とされているが、選びについて言えば、父祖たちのゆえに、神に愛せられる者である。 11:29 神の賜物と召しとは、変えられる

ことがない。 11:30 あなたがたが、かつては神に不従順であったが、今は彼らの不従順によってあわれみを受けたように、 11:31 彼らも今は不従順になっているが、それは、あなたがたの受けたあわれみによって、彼ら自身も今あわれみを受けるためなのである。 11:32 すなわち、神はすべての人をあわれむために、すべての人を不従順のなかに閉じ込めたのである。（ローマ 11：25-32）

いつの日か、神が来られ、「イスラエルを不敬虔から遠ざけられるでしょう」。「彼らの罪を取り除かれる」でしょう。なぜなら、神はこの人々に対する神の古代の約束を果たすために忠実であり続けられるからです。

この将来のイスラエルの回復はいつ起こるのでしょうか？それは、この人類の歴史の期間「大患難」と来る千年王国、最高潮に達する出来事との間に起こる可能性が最も高いです。イスラエルに対する神の当初のご計画は、イスラエルの民が世を神へと呼びかける神のための祭司国家となることでした。彼らが霊的に完全に回復したとき、彼らはいつかその役割を果たすでしょう。 旧約聖書の預言者たちは概してイスラエルの回復の日を前向きに指摘してきました（例：ミカ 4：2 とイザヤ 2：3）。

ローマ人への手紙第 9-11 章を閉じる前に、神のご計画が展開される方法に関する重要な問題に取り組んできたパウロは、神の方法は私たちの理解を超えていることを認め、頌栄の賛美で神を崇拝しました。

神の方法は計り知れない。

11:33 ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい。11:34「だれが、主の心を知っていたか。だれが、主の計画にあずかったか。11:35 また、だれが、まず主に与えて、その報いを受けるであろうか」。11:36 万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アァメン。（ローマ 11：33-36）

神の道と知恵は「計り知れない」ものです。その言葉は重要です。古代の船には、船長が座礁しないように水深を測定する責任者がいました。彼は木の棒でボートの側面を軽くたたき、海の底から反響する音を聞きました。船が深海に出たとき、音は下りましたが、反響は聞こえませんでした。男は船長に、『「計り知れない」深さのところにいます。』と報告するでしょう。

時代を超える神の包括的なご計画、ユダヤ人と異邦人の神の扱い、主権者である神のご御心と人間側の選択、さらに神の私たちへの扱いにおいて、これらが相互に作用することに関して、『神様、私には完全には理解していません！あなたの方法は計り知れません。』と言わざるを得なくなります。

しかし、ローマ人第 9-11 章の全体像は単純です。神は、ユダヤ人と異邦人に対して何をしておられるかを正確にご存じです。私たちはそんな神に信頼し、私たちがそのような神の謙遜な僕であることに焦点を合わせ、神が私たちの世界で取り組んでおられる神秘的で計り知れないご計画に専念することができます。

神の方法を理解していないときに神に信頼することは、私たちの神との歩みの旅路の中で最も難しいことではありますが、重要な側面の 1 つです。 これはヨブが突然の説明のつかない試練の時に闘争した教訓でした。 ヨブは自分の状況の背後にある理由を理解したかったのですが、彼に与えられた唯一の答えは『わたしは神であるからです。』でした。 たまに母親が着ている T シャツが思い浮かびます。『なんで？』『なんで？』『なんで？』と叫ぶ子供たちに「私が母親だからです！」と思い出させるためです。 ヨブ（及び、ローマ 9-11 章）のメッセージは、まさに次の通りです。神の方法が理解できないときでさえ神の御心を信頼してください。